

平成 28 年度若手研究者ワークショップ(ブラジル) 実施報告書

平成 29 年 3 月 31 日

1. ワークショップ名

(和文) 日本-ブラジル マラリアリサーチワークショップ:新たなパートナーシップの育成(英文) Japan-Brazil Malaria Research Workshop: fostering new partnershipsワークショップに関するホームページ <http://www.tm.nagasaki-u.ac.jp/japan-brazilworkshop/>

2. ワークショップの目的

このワークショップの目的は、日本とブラジルからマラリア研究における若手研究者を集め、知識と技術の交換を通じ、マラリア学者間の交流、共同研究を促進することである。

3. 開催期間 平成 29 年 3 月 15 日 ~ 平成 29 年 3 月 17 日 3 日間4. 開催地(会場) サンパウロ大学(USP) サンパウロキャンパス 公衆衛生学部

5. 開催体制

(1)実施機関

日本側	独立行政法人日本学術振興会(JSPS)
	国立大学法人長崎大学
ブラジル側	サンパウロ州立研究財団(FAPESP)
	サンパウロ大学(USP)

(2)開催責任者

1)日本側

コーディネーター

所属機関・部局・職・氏名 国立大学法人長崎大学・熱帯医学研究所・准教授・カレトン リチャード機関所在地 〒852-8523 長崎市坂本 1-12-4TEL 095-819-7903FAX 095-819-7805Email richard@nagasaki-u.ac.jp

事務担当者

部局・職・氏名 研究国際部研究企画課・研究企画班主査(戦略企画)・原口 剛

機関所在地 〒852-8521 長崎県長崎市文教町1-14

TEL 095-819-2039

FAX 095-819-2040

Email kenki@ml.nagasaki-u.ac.jp

2) ブラジル側

コーディネーター

所属機関・部局・職・氏名 サンパウロ大学(USP)・生物医学研究所・寄生虫学教授・Marcelo Urbano Ferreira

機関所在地 Av. Prof. Lineu Prestes 1374, Cidade Universitária, 05508-900 São Paulo, Brazil

TEL 55-11-3091-7746

FAX _____

Email muferre@usp.br

6. 参加者

(1) メンター

日本側

氏名	所属機関・部局	職名	専門
坪井 敬文	愛媛大学プロテオサイエンスセンター マラリア研究部門	教授	マラリアワクチン
美田 敏宏	順天堂大学医学部 熱帯医学・寄生虫病学講座	教授	薬剤耐性マラリア 集団遺伝学
砂原 俊彦	長崎大学熱帯医学研究所 病害動物学分野	助教	疫学・昆虫学

ブラジル側

Paulo Eduardo Martins Ribolla	サンパウロ州立大学(UNESP)・生物医学研究所 寄生虫学分野	准教授	分子昆虫学
Maria Anice Mureb Sallum	サンパウロ大学(USP)・公衆衛生学疫学分野	教授	媒介生物学・分類学
Daniel Youssef Bargieri	サンパウロ大学(USP)・生物医学研究所寄生虫 学分野	助教	細胞学・分子生物学

(2)参加者数

	メンター数	参加者数	その他 参加者数 ^[注]	合計
日本側参加予定数	3	15	1	19
ブラジル側参加予定数	3	5	20	28
その他の国からの参加予定数	0	0	1	1
合計	6	20	22	48

[注]本事業で経費を負担しない参加者については、「その他参加者数」にてカウントしてください。

(3)参加者リスト 様式 3-1 及び 3-2 にて最終版を提出してください。

(4)参加者の選出方法

両国のマラリア研究の将来を担うことのできる研究者の育成を目的とし、以下の基準をもとに選抜する。
選抜にあたっては、両国の関連学会にアナウンスし、希望者の中から両国のコーディネーター及びメンターが協議して参加者を決定する。

博士号取得後 10 年以内で、マラリア研究の実績を有していること。
相手国マラリア研究者と共同研究の実施を検討していること。
ただし、これまでの相手国研究者との共同研究実績の有無は問わない。

7. 委託事業の内容

(1)運営体制・方法について

日本側コーディネーターのカレトン リチャード(長崎大)、日本側メンターの坪井(愛媛大)・美田(順天堂大)・砂原(長崎大)で参加者の募集・選出を行う。

ワークショップではコーディネーターおよびメンターは基調講演を行うとともに、その後の一般講演とポスターセッションにおいては、座長として各専門分野に関する議論をとりまとめる。

(2)日程、議題(別添可)

全日程において、講義、基調講演、参加者のポスターセッションおよび口頭発表を実施する。
加えて、1日目はテーマ研究、2日目はグループディスカッション、3日目はサンパウロ大学(USP)マラリア研究室を見学する。

8. 本事業で得られた成果

(1) 学術的な観点からの成果

このワークショップは、学術交流という点で大成功であった。日伯のシニア研究者の講義、両国の若手研究者の口頭発表、全参加者のポスターセッションが含まれており、どの研究発表も素晴らしく、分野、国籍、年齢を超えたアイデアの交流が実現した。休憩や昼食の時間等であっても頻りに熱心で興味深い議論がなされていた。

プレゼンテーションに加え、出席者は、両国のメンターが指導する領域別のテーマに沿った3グループで研究内容についてディスカッションを行い、共同研究の機会について話し合うことができた。これらのグループディスカッションは特に実りがあり、日伯研究者間に親密な関係が構築された。i) 分子生物学、ii) 疫学、iii) ベクター生態学の3テーマに基づいたグループを配置した。これらの分野に特化したメンターがグループディスカッションに参加し、各研究者が研究内容をグループ内で紹介、共同研究の機会について議論が行われた。日本からの参加者は、すべての研究分野において、ブラジルの研究者の専門知識と優れた科学のレベルに感銘を受け、今後も交流・議論を続けていこうと刺激を受ける事になった。若手研究者がリラックスした雰囲気の中で国際的な聴衆の前で研究発表をすることができた。

このワークショップは、大変貴重で研究の改善と進歩の方法に関する多くの提案につながった。例えば、グループ i) では主に、マラリアおよびフィラリア症の診断のための新しいマーカーを同定するために適用される戦略について議論された。共通の戦略として、バイオインフォマティクス(例えば、B細胞エピトープファインダー)を介して数および潜在的なものを狭める文献レビューを通じて、報告されたすべての抗原およびマーカーを同定することであった。ブラジルのメンバーは、胎盤マラリアを検出するために反応性のタンパク質 C の使用について議論した。グループ内の他の議論に基づいて、参加者はお互いに協力して GFP タギングと突然変異/ノックアウト研究に関する研究を拡大したいと考えていた。疫学グループの一部は、アメリカ大陸の三日熱マラリアの進化の歴史についての堅実な議論を楽しんだ。

ブラジルと日本のグループは、潜在的な人獣共通感染症に焦点を当て、輸入マラリアの診断と追跡を知らせる最良の方法について知識を交換した。Plasmodium simium と Plasmodium braslianum の進化の歴史を調べるために、長崎からのグループと Fiocruz からのグループとの共同研究が設立された。

(2) 国際交流及び若手研究者養成の観点からの成果

ワークショップの最終目標は、日伯の若手マラリア研究者の新たなネットワーク、友好関係を育成することであった。ブラジルで現在進行中の研究に精通していない日本人の参加者は、ブラジルで行われている研究がいかにダイナミックで面白いか興味深く聞く事ができた。

日伯研究者の間には、ワークショップ中もそれ以外の時間にも、大変有意義な交流があった。Marcelo 教授をはじめとするブラジル側の学術的で社会的なワークショップの組み立てにより、常に若手研究者同士が積極的に交流していたので、今後の共同研究の可能性が大きく開けたのではないかと考える。

講義、研究発表とも常にオープンでリラックスしており、議論やアイデアの共有に大きな力を与えた。

議論の中で、参加者はブラジル人研究者との共同研究の機会について積極的に考えるよう促された。

参加者はすでに別の日伯間の研究会合に参加することに意欲的になっており、共同研究の次のステップを計画している。例えば、長崎のグループと FioCruz のグループは、サンパウロの大西洋森林地域からの人獣共通感染症マラリアの全ゲノムシーケンシングに関する共同研究を開始した。

平成28年度若手研究者ワークショップ 参加者リスト

平成29年 3月 31日

ワークショップ名: 日本-ブラジル マラリアワークショップ: 新たなパートナーシップの育成

1. 日本側参加者リスト

No	姓	名	所属機関・部局	職名	所属国名 ¹⁾	備考 ²⁾
No	Family Name	Name	Affiliation	Job Title	Country ¹⁾	Note ²⁾
1	カレトン	リチャード	長崎大学 熱帯医学研究所 病理学分野 マラリアユニット	准教授	日本	*
1	CULLETON	RICHARD	Department of Protozoology, Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University	Associate Professor	Japan	
2	坪井	敬文	愛媛大学 プロテオサイエンスセンター マラリア研究部門	教授	日本	*
2	TSUBOI	TAKAFUMI	Division of Malaria Research, Proteo-Science Center, Ehime University	Professor	Japan	
3	美田	敏宏	順天堂大学 医学部 熱帯医学・寄生虫病学講座	教授	日本	*
3	MITA	TOSHIHIRO	Department of Tropical Medicine and Parasitology, Juntendo University School of Medicine	Professor	Japan	
4	砂原	俊彦	長崎大学 熱帯医学研究所 病害動物学分野	助教	日本	*
4	SUNAHARA	TOSHIHIKO	Department of Vector Ecology and Environment, Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University	Assistant Professor	Japan	
5	麻田	正仁	長崎大学 熱帯医学研究所 原虫学分野	助教	日本	*
5	ASADA	MASAHITO	Department of Protozoology, Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University	Assistant Professor	Japan	
6	園田	梨沙	長崎大学 熱帯医学研究所 寄生虫学分野	助教	日本	*
6	SONODA	RISA	Department of Parasitology, Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University	Assistant Professor	Japan	
7	矢幡	一英	長崎大学 熱帯医学研究所 原虫学分野	助教	日本	*
7	YAHATA	KAZUhide	Department of Protozoology, Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University	Assistant Professor	Japan	
8	カレンダ	ヨンボ	長崎大学 熱帯医学研究所 生態疫学分野	特任研究員	日本	*
8	KALENDA	YOMBO	Department of Eco Epidemiology, Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University	Research Fellow	Japan	
9	ドバデル	ビム グッパル	長崎大学 熱帯医学グローバルヘルス研究科	助教	日本	*
9	DHOUBHADEL	BHIM GOPAL	School of Tropical Medicine and Global Health, Nagasaki University	Assistant Professor	Japan	
10	テルカウイ	モハメド アラー	北海道大学 大学院 医学研究科 整形外科学分野	助教	日本	*
10	TERKAWI	MOHAMAD ALAA	Frontier Research Center for Advanced Material and Life Science, Department of Orthopedic Surgery, School of Medicine, University of Hokkaido	Assistant Professor	Japan	
11	モッサード	イハブ	帯広畜産大学 原虫病研究センター	特任研究員	日本	*
11	MOSSAAD	EHAB	Research Center for Global Infection Control, National Research Center for Protozoan Diseases, Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine	Postdoctoral Researcher	Japan	
12	エデュラ	ジョティスワラレ デー	大阪大学 微生物病研究所 難治感染症対策研究センター 分子原虫学分野	特任研究員	日本	*
12	EDULA	JYOTHEESWARA REDDY	Department of Molecular Protozoology, Research Institute for Microbial Diseases, Osaka University	Postdoctoral Fellow	Japan	
13	倉石	貴透	金沢大学 医歯薬保健学総合研究科 生態防御応答学研究室	准教授	日本	*
13	KURAIISHI	TAKAYUKI	Laboratory of Host Defence and Responses, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University	Associate Professor	Japan	
14	高野	量	帯広畜産大学 原虫病研究センター	特別研究員 (JSPS)	日本	*
14	TAKANO	RYO	Research Center for Global Infection Control, National Research Center for Protozoan Diseases, Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine	Postdoctoral Fellow	Japan	
15	森田	将之	愛媛大学 プロテオサイエンスセンター マラリア研究部門	助教	日本	*
15	MORITA	MASAYUKI	Division of Malaria Research, Proteo-Science Centre, Ehime University	Assistant Professor	Japan	
16	新倉	保	杏林大学 医学部 感染症学講座 寄生虫学部門	助教	日本	*
16	NIIKURA	MAMORU	Division of Tropical Diseases and Parasitology, Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine	Assistant Professor	Japan	
17	井上	信一	杏林大学 医学部 感染症学講座 寄生虫学部門	助教	日本	*
17	INOUE	SHINICHI	Division of Tropical Diseases and Parasitology, Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine	Assistant Professor	Japan	
18	谷口	委代	群馬大学大学院 医学系研究科 国際寄生虫病学分野	助教	日本	*
18	TANIGUCHI	TOMOYO	Department of Parasitology, Graduate School of Medicine, Gunma University	Assistant Professor	Japan	
19	ルントウエネ	ルッキー ロナルド	東京大学 大学院 新領域創成科学研究科 メディカル情報生命専攻 生命システム観測分野	特任研究員	日本	*
19	RUNTUWENE	LUCKY RONALD	Laboratory of Systems Genomics, Department of Computational Biology and Medical Sciences, Graduate School of Frontier Sciences, The University of Tokyo	Research Fellow	Japan	
20	ロイド	雪絵	ハワイ大学 医学部 熱帯医学科	博士課程大 学院生	アメリカ	
20	Lloyd	Michelle Yukie	Department of Tropical Medicine John A. Burns School of Medicine, University of Hawaii	Student (PhD)	USA	
21	東岸	任弘	大阪大学 微生物病研究所 難治感染症対策研究センター 分子原虫学分野	助教	日本	
21	TOUGAN	TAKAHIRO	Department of Molecular Protozoology, Research Institute for Microbial Diseases, Osaka University	Assistant Professor	Japan	

1) 参加者が所属する機関の所在国を記入してください

2) 本ワークショップ経費にて参加される方については、備考欄に「*」を記入してください。

List of Participants for JSPS-FAPESP Joint Research Workshop 2016

Date: 2017.03.31

Workshop Title: Japan-Brazil Malaria Workshop: fostering new partnerships

2. List of participants on the Brazilian side

No	Family Name	Name	Affiliation	Job Title	Country ¹⁾	Note ²⁾
1	Ferreira	Marcelo Urbano	University of São Paulo	Professor	Brazil	*
2	Ribolla	Paulo Eduardo Martins	State University of São Paulo	Associate professor	Brazil	*
3	Sallum	Maria Anice Mureb	University of São Paulo	Professor	Brazil	*
4	Bargieri	Daniel Youssef	University of São Paulo	Assistant Professor	Brazil	*
5	Cintra Pincelli	Anaclara	University of São Paulo	Graduate student	Brazil	
6	Costa	Anielle	Fiocruz-RJ	Post-doctoral fellow	Brazil	
7	Aguiar	Anna Carolina	University of São Paulo	Post-doctoral fellow	Brazil	*
8	Ferreira Alves de Brito	Cristiana	Fiocruz-MG	Associate researcher	Brazil	
9	Alvarenga	Denise	Fiocruz-MG	Graduate student	Brazil	
10	Oliveira de Freitas	Elisangela	University of São Paulo	Post-doctoral fellow	Brazil	*
11	Virgínio Fonseca	Flavia	University of São Paulo	Graduate student	Brazil	
12	Dobrescu	Irina	University of São Paulo	Graduate student	Brazil	
13	Calit	Juliana	University of São Paulo	Undergraduate student	Brazil	
14	Chaves	Leonardo	University of São Paulo	Graduate student	Brazil	
15	Ortolan	Luana	University of São Paulo	Graduate student	Brazil	
16	Fontoura	Pablo Secato	University of São Paulo	Post-doctoral fellow	Brazil	*
17	Rodriguês	Priscila	University of São Paulo	Graduate student	Brazil	
18	Nagaki	Sandra	University of São Paulo	Post-doctoral fellow	Brazil	*
19	Crippa de Oliveira	Thaís	University of São Paulo	Graduate student	Brazil	
20	Ferreira	Tiago	University of São Paulo	Graduate student	Brazil	
21	Nicolete	Vanessa	University of São Paulo	Graduate student	Brazil	
22	Araújo Pereira	Virgínia	Fiocruz-RJ	Graduate student	Brazil	
23	Mendes Silva	Natércia Regina	University of São Paulo	Graduate student	Brazil	
24	Soares Ferreira	Natalia	University of São Paulo	Graduate student	Brazil	
25	Multini	Laura	University of São Paulo	Graduate student	Brazil	
26	Volpe da Silveira	Eduardo Lani	University of São Paulo	Assistant Professor	Brazil	*
27	Ferreira Lima	Nathália	University of São Paulo	Graduate student	Brazil	
28	Duque Araujo	Rosana Beatriz	University of São Paulo	Graduate student	Brazil	
29	Bosch	Soraya Soledad	University of São Paulo	Graduate student	Brazil	

¹⁾ Please write a country of affiliated institution.

²⁾ Please put "*" in this section when FAPESP/JSPS pays his/her expenses.

JSPS-FAPESP Joint Research Workshop

Evaluation Results

Japan-Brazil Malaria Research Workshop: fostering new partnership

A = strongly agree B = agree C = neutral D = disagree E = completely disagree

Part 1

Organization of the workshop

-The time allotted to each part of the program was appropriate

A 44.4% B 26% C 22.2% D 7.4% E 0%

-The lecture and laboratory components were effectively linked

A 61.5% B 31% C 7.5% D 0% E 0%

-The size of the classes was optimal

A 66.7% B 22.2% C 7.4% D 0% E 3.7%

Lectures

-Sufficient time was allocated for the lectures

A 66.7% B 26% C 0% D 0% E 7.3%

-The lectures were useful in my research (interesting, stimulating and practical)

A 70% B 15% C 11% D 4% E 0%

-The level of the lectures relative to my educational background and experience was optimal

A 65.5% B 19.2% C 11.5% D 3.8% E 0%

Discussions

-Sufficient time was allocated for the discussions

A 44.5% B 29.6% C 14.8% D 7.4% E 3.7%

-The discussions were useful in my research (interesting, stimulating and practical)

A 48% B 30% C 22% D 0% E 0%

Excursion (if applicable)

-The excursion(s) was well organized

A 59.1% B 27.3% C 9.1% D 4.5% E 0%

-The excursio(s) was educating and helpful for my research

A 62% B 28.6% C 4.7% D 4.7% E 0%

Lecturers

-Lecturers gave equal treatment to all the participants

A 77.3% B 13.6% C 4.55% D 0% E 4.55%

-Lecturers respected the ideas, opinions and comments of the participants

A 71.4% B 14.3% C 9.5% D 0% E 0%

Overall

-I found my participation in the workshop to be meaningful

A 68.3% B 13.6% C 13.6% D 4.5% E 0%

-I was able to create and expand working networks with other researchers
by participating in the workshop

A 42.9% B 33.3% C 14.3% D 9.5% E 0%

Part 2

-The most successful aspect of this workshop:

- interactions between lecturers and participants, Japanese and Brazilian researches
- sharing the experiences and knowledge
- lectures
- Discussions
- oral presentations
- hospitality
- subjects
- opportunities to meet people
- creating network

-The least successful aspect of this workshop (if possible, suggestion for improvement):

- group discussions
- poster sessions
- lecture time

-Other comments:

- lots of errors in the booklet
- abstracts of the participants should have been in the booklet
- Group discussion should have been held after poster sessions.
- all participants should have oral presentations
- better to have known research field of each participant before the workshop

- This kind of workshops should be held more often
- more time for discussions, talking about collaborations
- small improvements can be made by expanding the eligibility criteria for travel grants

Part 3

Your personal information

Age:

- A. 20-24 0%
- B. 25-29 26 %
- C. 30-34 29.6 %
- D. 35-39 22.2%
- E. over 22.2%

Title:

- A. Ph.D. student 34.6%
- B. Postdoctoral Researcher 23.1%
- C. Research Associate 0 %
- D. Lecturer 0%
- E. Researcher 3.8%
- F. Associate Professor 7.7%
- G. Other (Assistant Professor) 30.8%

Research Field infection immunology • biology • immunology • pathology • malaria vaccine • P. falciparum • malaria biology • parasitology • genomics • population genetics • malaria immune response • protozoology • drug discovery • malaria epidemiology • vector biology • diagnostic • immuno-parasitology • field survey of NTDs • entomology